

2011年の東北地方太平洋沖地震から早いもので5年が経過しましたが、今も被災地の復興は道半ばであり、同地震によるインパクトの大きさと被害の甚大を改めて認識させられます。本地震で犠牲になった方のご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復旧を心より祈念いたします。

鉄道という側面からこの地震を振り返ると、発災後、鉄道は被災地への石油の迂回輸送や、余震による再被害を乗り越えての新幹線の早期復旧など、被災地の復旧復興に重要な役割を果たしました。一方、内閣府の発表によると、今後30年以内にマグニチュード7クラスの地震が発生する確率は70%程度と推定されています。「天災は忘れた頃にやってくる」は有名な格言ですが、まさに忘れる余裕も無く将来の巨大地震に備えることが求められています。今回の特集では、東北地方太平洋沖地震

の経験を踏まえ、今後の巨大地震に立ち向かうための設計思想や、具体的な事前・事後対策の技術を紹介しました。鉄道総研でも、2014年に新たに設置した鉄道地震工学研究センターを中心として、鉄道の地震安全性の向上や地震後の早期復旧支援のための拠点となるべく、本特集で紹介したような技術開発や情報の集約、ならびにこれらの成果や情報の発信をさらに推進してまいります。関係各位の更なるご支援、ご協力をお願いいたします。

次号の特集は「列車の車内を快適に」です。利用者が移動手段として鉄道を選択する際、重要な判断材料の一つとなる車内の快適さをさらに向上させるため、車両や人間科学、通信環境など多様な分野での最新の研究成果を紹介します。どうぞご期待下さい。(A.T.)